畜産資材EXPO盛大に開催！

省力、衛生、環境、畜ふん機器など展示

畜産関係の機器・資材メーカーなど約120社が一押し製品を提案する『第1回畜産資材EXPO』が10月9～11日、千葉市美浜区の幕張メッセで開かれた。同EXPOは農畜産業界に向けた国内最大級の展示商談会「農業week」内の専門展で、園芸や道工具展などとの同時開催。主催したリードエグジビションジャパン㈱（石積忠夫名誉会長―本社・東京都新宿区）によると、3日間で合計3万9894人が来場した。

㈱三共技研（千葉）は最小機の開発に至った エピソードとして、手作業で洗卵する採卵養鶏場や直売所などに向けて、新製品の卓上小型洗卵機『ミニエッグクリーナー』（定価73万円）を提案した。湯と電源（AC100V）があれば毎時3000卵を洗浄でき、近藤知博社長は「放し飼いの養鶏場や、卵をタオルで拭いていた農場から製品化が望まれていた。ポイントは一般家庭のコンセントで稼働できる点」と紹介。洗卵時の卵へのダメージを抑えようと、ロールブラシを高速回転させるのではなく、研磨材を練り込んだブラシを前後に往復させる方式を採用した。近藤社長は最小機の開発に至ったエピソードとして、ある養鶏場の娘さんからの「お母さんは冬場、かじかんだ手で卵を拭いている。少しでも楽になる機械を買ってあげたい…」との言葉があったと教えてくれた。

また同ブース内では、㈱たまがる（鹿児島）がマルイ農協グループの採卵鶏ふんを堆肥化した『たまがっ土（ど）』を出品。与論島の海水や鉄鉱物などが主成分の「アイドーラ液」を配合したもので、同社と㈲上田養鶏を経営する上田壮一郎社長は「アイドーラ液でアンモニア臭を抑え、耕種農家が扱いやすいようにC／N比（炭素と窒素の比率）は10～14程度。九州だけでなく、関東での販売も好調」とコメント。ホームセンターへの販路拡大にも取り組み、1キロ入りボトルの小売価格は350円前後。

全農グループのブースでは、全農畜産サービス㈱（東京）が紹介した非常用可搬型発電機『エルソナ』シリーズが注目を集めた。LPガスとガソリンで稼働する同機の特徴は①ワンプッシュでスタート（5回の自動リライで確実に始動）②バッテリー切れでも手動でスタート（リコイル付き）③一般家庭にある50キロボンベ1本で約30時間稼働（最小の3500Wモデルの場合）④スマホはもちろんパソコンも安定して使える出力⑤ディーゼルなどと比べて低濃度の排ガス⑥オイル切れの際はエンジンが自動停止（焼き付き防止）⑦ガソリンも使えるハイブリッド式――であること。

同社施設事業部の今井昭文部長は「事前のセッティングで鶏舎内の照明や給餌システムなどを稼働でき、停電後の成績低下を防げる」としていた。

㈱垣内（高知）は発酵処理後の鶏ふんをペレット化するツインダイス式ペレタイザー『粒造くん』と、ペレットの冷却機『ひえた君』を出展。開発部ペレタイザー営業部の野中隆部長らが、粒造くんは頑丈で故障が少なく、ペレット化した堆肥は機械で散布しやすいとアピール。

畜ふん堆肥化プラントの設計・製造だけでなく、堆肥の購入、JAグループへの販売までを行なう東邦実業㈱（新潟）も参加。篠沢貴徳社長が事業内容を説明し、畜産生産者には粒状堆肥を作れる『東邦式畜ふん発酵装置』を、耕種農家には有機肥料『くみあい鶏ふん』や、ウズラふんが原料の『スーパーストロンガー』などを紹介。

タンク1台で鶏ふんの撹拌、発酵、脱臭を行なえる装置では、三友機器㈱（福岡）が『コンポ富士』、中部エコテック㈱（愛知）が『コンポS』をPR。どちらも未発酵の鶏ふんを直接投入でき、タンクが円柱形で設置スペースを取らない。密閉タイプのため堆肥化時の悪臭と騒音を抑えられることも特徴。

三菱電機グループの㈱ソーワテクニカ（岐阜）は、畜産用換気扇と太陽光発電システムを展示。今年4月に発売した『農事用有圧換気扇60センチ角形タイプ〈DCブラシレスモータ搭載〉』については、優れた換気と送風性能で鶏舎内の環境改善と省エネに貢献できると強調した。

冬場の防疫強化と衛生管理に向けては、フィーネナチュラル㈱（東京）が水酸化カルシウム（消石灰）を原料とした防疫資材『フィーネナチュラルFNPパウダー』を出品。営業部の大久保雄介部長は「まずはFNPパウダーの水溶液を作り、踏み込み消毒槽や車両消毒に使ってみてほしい。当社ではFNPパウダーと逆性石けんの混合使用を推奨している」と提案。直近ではブロイラー孵化場の協力を得て孵卵器内での消毒効果を検証。経営者から「効果があった」との感想を得られたという。

大豊産業㈱（香川）が出展したのは、採卵鶏農場のケージ内の死亡鶏を検知する『死亡鶏巡回監視システム』。自動巡回ロボットが舎内を撮影し、画像を事務所のパソコンで確認できるほか、死亡鶏を検知すると、管理者の携帯電話にメールで通知する。発売予定の新型機にはサーモカメラを搭載し、温度の面からも死鶏をチェック（死鶏は温度が低い）。現行モデルの検出率は85～90％だが、新型機では同95％まで上昇させている。

㈱湧蒼塗装研究所（新潟）は、飼料タンクに塗るだけで内部の温度上昇を抑えられる『エサガード隼（はやぶさ）』と、畜舎の屋根用の『屋根ガード隼』を紹介。屋根の場合は表面温度を20～30度C、畜舎内温度を2～5度C下げられるとのこと。また、塗膜が屋根を守ってサビと腐食を抑え、紫外線や酸性雨からも保護する。

ミヤリサン製薬㈱（東京）は各種の動物用医薬品や飼料添加物の特徴を解説。酪酸菌（宮入菌）を配合した牛、豚、鶏用の飼料添加物『ミヤゴールド』については、酪酸菌が生きたまま大腸まで届いて腸内環境を整え、成長促進と、飼料効率の改善につながるとした。

このほか、富士平工業㈱（東京）は弱酸性次亜塩素酸除菌水を生成する『FHK除菌革命生成装置』、㈱ジンマックス・ジャパン（大阪）は鶏用の複合酵素製剤『アビザイム1502』、蔵王産業㈱（東京）は各種の高圧洗浄機、韓国のインターヒート社は吊り下げ式の暖房器具『養鶏用カーボンファイバーヒーター』について説明。

伊藤忠飼料㈱（東京）は専用の端末で豚を撮影すると、その外観から体重を推定するシステム『デジタル目勘』を、プライフーズ㈱ハイポー事業本部（宮城）と、日清丸紅飼料㈱（東京）はそれぞれ種豚を紹介した。

農業資材EXPOにも各社が出展

同時開催の『第9回農業資材EXPO』では、㈱晃伸製機（愛知）が鶏舎内のケージ自動洗浄機『ヴィーナス』や、バーコンベア洗浄機、鶏ふん発酵撹拌機などをパンフレットで紹介。設計開発部・技術営業の今野輝樹氏は「ヴィーナスは発売から約10年が経った。標準機ではケージ4段分を一度に洗うことができ、最後の仕上げ洗い以外は任せられることから、国内外での導入実績が着実に増えている。畜産クラスター事業の対象製品であることも周知していきたい。堆肥化のシステムについては、国内のパイが小さくなる中で海外に活路を見いだしている。現在、堆肥関係の売上高のうち約7割が海外」などと話していた。

日本モウルド工業㈱（同）は今年9月に発売した新タイプのモウルドパックを展示。天面と側面前、側面後ろの3面にわたって紙ラベルを貼ったパックで、同社の本社工場に専用貼付システムを導入して供給が可能となった。従来の鶏卵パックは天面と側面前の2面貼りが多いが、東京支店の内山長武次長らが「紙ラベルの面積が従来よりも拡大し、表現できる内容の幅が広がった」ことを来場者に伝えた。

㈱土佐農機（高知）は小型電動噴霧器『モーターフォグ』を、㈱ピィアイシィ・バイオ（東京）は農業や園芸向けのフルボ酸複合液肥『フルボ鉄＋マルチミネラル』を農業者らにPRした。

三共技研の卓上小型洗卵機『ミニエッグクリーナー』

たまがるの鶏ふん堆肥『たまがっ土』（1キロボトル入り）

全農ブースには科学飼料研究所やJA全農たまごの商品資料も

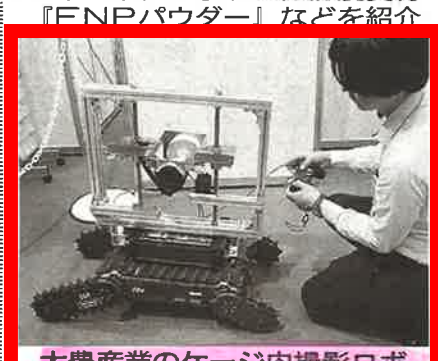
全農畜産サービスが提案した非常用可搬型発電機『エルソナ』

垣内のペレタイザー『粒造くん』は頑丈で故障が少ない

堆肥化設備の製造・販売などを行なう東邦実業も出展

ソーワテクニカの『農事用有圧換気扇60センチ角形タイプ』

フィーネナチュラルは防疫資材『FNPパウダー』などを紹介


大豊産業のケージ内撮影ロボット（高さなどは調整可能）

湧蒼塗装研究所は養鶏場の暑熱対策につながる塗料を提案

ミヤリサン製薬は『ミヤゴールド』など飼料添加物を紹介

晃伸製機は養鶏用ケージ自動洗浄機などをアピール

日本モウルド工業は新型モウルドパックの訴求力を強調

ピィアイシィ・バイオが展示したフルボ酸複合液肥

HENDRIX GENETICS　今日のより良い育種